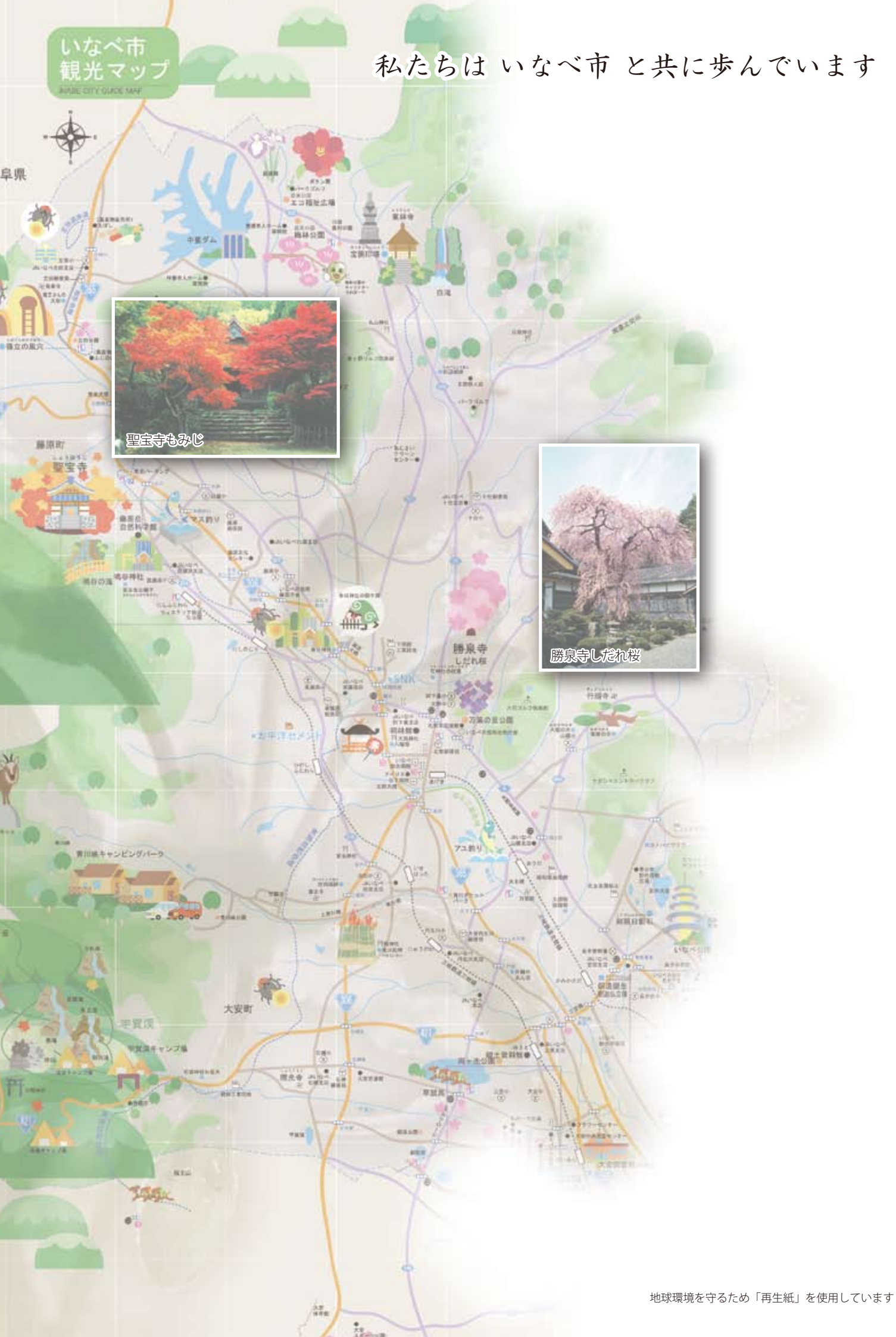
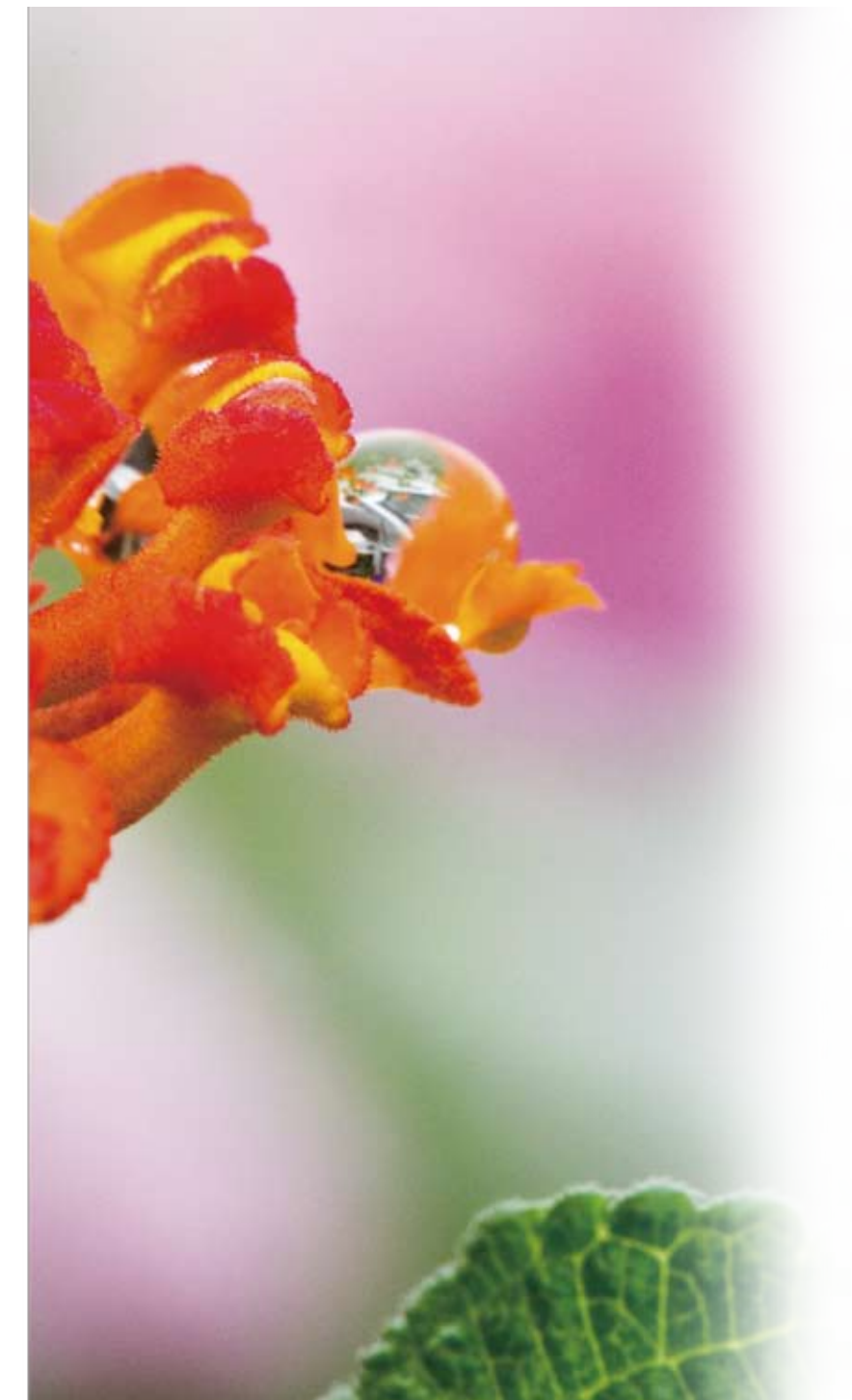




私たちは いなべ市 と共に歩んでいます

安全・環境経営レポート



エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

平成 22 年 7 月 (平成 21 年度 活動報告)

CONTENTS 目次

社長メッセージ ～わたしの環境経営理念～ 3

1 会社プロフィール 4

- ◆ 会社概要、沿革、事業概要、許可・資格等
- ◆ 最近のニュース&お知らせ

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です 6

- ◆ 協働・連携企業紹介と連携体制
- ◆ 北勢工場への廃油等廃棄物搬入企業数等の状況

3 廃油等の再資源化処理プラント・北勢工場です 8

- ◆ 北勢工場の概要・特色、北勢工場取扱廃棄物の再資源化・環境負荷の状況
- ◆ 廃油等の補助燃料への再生処理（中間処理）工程

4 社会ニーズに応える廃棄物再資源化の取組体制です 12

- ◆ 安心・安全・確実な再資源化への取組
- ◆ 北勢工場試験分析室の取組
- ◆ 再資源化に向けての研究

5 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です 14

- ◆ 北勢工場の環境保全の状況
- ◆ 北勢工場への環境クレームの状況

6 廃棄物の再資源化を進める廃棄物収集運搬事業です 16

- ◆ わたしたちの廃棄物収集運搬理念
- ◆ 安全・環境に優しい収集運搬を行うための車輛保有状況
- ◆ 再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績

7 ISO14001 認証取得・環境活動の状況です 18

- ◆ ISO14001 認証取得経過・環境方針・推進体制
- ◆ 環境活動報告

8 組織・全社員の「安全・環境」意識や技術を高める取組です 20

- ◆ 「安全・環境」教育・訓練等の実施
- ◆ 安全・環境取組の組織体制等

9 社会貢献活動の取組状況です 22

10 環境コミュニケーションを大切に考えます 23

- ◆ ISO14001 認証取得、ホームページ、環境報告書、工場見学
- ◆ 環境イベント参加、環境大臣表彰受賞、その他

11 第三者コメント 25

その他 26

- ◆ 環境メモ、会社（統括本部・北勢工場）への案内図、いなべ市観光マップ

わたしの環境経営理念



社長メッセージ

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、廃棄物の再資源化を中核事業とする企業です。廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に一層取組むとともに、自らの環境活動についても継続的に改善する企業活動を展開します。

ここに、環境経営の理念と、この理念の具現化に向けての行動指針及び重点推進事項を明確に示します。

生川好彦

環境経営理念

われわれが目指す廃棄物の再資源化事業においては、何よりも、地域社会や顧客の信頼を得ることが大切です。「環境と企業経営は対立する軸ではなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する。」との理念で企業活動を展開します。

環境経営行動指針

- 安定・継続する関連企業間の協働・連携体制を確立し、安定・継続する再資源化を達成する。
- 「廃棄物は大切な資源」であることを、収集運搬から再資源化までの全工程において、組織・全従業員で共有し行動する。
- 環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を改善する企業として行動する。

環境経営重点推進事項

- ISO14001 認証を継続更新する。この活動においては、全組織、全従業員の参画を重視する。
- 環境報告書(名称:安全・環境経営レポート)を毎年発行する。作成にあたっては、ステークホルダー、特に地域社会の方々に幅広くご覧いただき理解される他、全従業員から自らの更なる環境経営行動の指針になると評価されることを重視し、わかりやすいものとする。
- 環境理論や技術で裏打ちされる再資源化処理を研究・工夫し、再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充する。経験・実績のある人材を確保し、既存の理論・技術を新しい観点から応用・工夫する等して着実に推進する。併せて、北勢工場の施設設備を充実し、再資源化機能を強化する。
- 産業廃棄物中間処理工場が、一般的に持たれているイメージを転換していただける環境管理を徹底する。

報告に当たっての基本的要件

対象組織	社員 54 名の小規模企業のため、全組織・全社員の連携で事業活動が行われていることから会社全体を対象。また、廃棄物の再資源化が事業の中核であることから、協働・連携する企業間の関係についても記載。
対象期間	平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月（直近事業年度）を基本としているが、必要に応じて現在の状況や計画などについても記載。（今回発行第 6 版）。
対象分野	報告の基軸は環境的側面であるが、事業の性格上「安全」と「環境経営」の理念を一体として捉える必要から「安全・環境経営レポート」として作成。

1 会社プロフィール

会社概要

社 名 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
代 表 者 代表取締役社長 生川好彦
所 在 地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町 4 番 45 号
北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下 633 番地
(TEL、FAX、U R L、E-mai l、会社位置案内図は 27 ページ)
設 立 平成 12 年 3 月 1 日
新日本技研㈱から環境事業部門を分社（通算事業実績 35 年超）
事業規模 資本金 3,000 万円

区分\決算	13 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
社員数 (人)	30	43	52	53	52	54
売上高 (百万円)	765	1,027	1,169	1,362	1,431	1,235

(設立直近年度・最近 5 ヵ年度の状況：決算年度毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日)

組 織
社長 — 統 括 本 部 — 総務部 財務部 営業・運輸部 技術部
— 北 勢 工 場 — 藤原出張所
— 安全管理室

関連会社 新日本技研株式会社（昭和 48 年 3 月設立 土木建築工事・設備工事・保全工事）
ウィズ・ネット株式会社（廃棄物や社会貢献に係る企画・調査等、人材派遣業）



昭和 48 年 3 月 新日本技研株式会社設立
50 年 2 月 産業廃棄物処理事業部門設置
56 年 10 月 小野田セメント株式会社（現：太平洋セメント㈱）
藤原工場内で産業廃棄物処理（再資源化）を事業化
61 年 3 月 (財)クリーン・ジャパン・センター会長賞受賞（再資源化貢献）
平成 7 年 12 月 北勢工場新設
平成 12 年 3 月 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社設立（新日本技研㈱から分社）
6 月 営業開始
15 年 5 月 第二工場新設・操業開始
19 年 7 月 北勢工場事務所棟新築
20 年 10 月 環境大臣表彰受賞
(平成 20 年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰)
21 年 3 月 第二工場内に危険物第 4 類第 1 石油類となる
エマルジョン燃料製造施設を整備

事業概要

■産業廃棄物の中間処理

企業活動から発生する廃油、廃酸、廃アルカリ等をブレンドし、セメント工場での補助燃料等として再生処理して供給

営業品目

- ・産 業 廃 棄 物 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・ばいじん
- ・特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

■産業廃棄物の収集運搬

企業活動から発生する産業廃棄物をセメント原燃料として供給する等、再資源化に向けての取組みを強化しながら、安全・適正に産業廃棄物を収集運搬

営業品目（三重県内営業品目）

- ・産 業 廃 棄 物 燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・鉋さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん
- ・特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・特定有害廃油・特定有害汚泥

※三重県の他、相模原市・福井県・岐阜県・岐阜市・愛知県・名古屋市・豊田市・岡崎市・滋賀県・大津市・大阪府・大阪市・堺市・高槻市・岡山県・福山市・高知市について許可取得
(営業品目は各自治体で異なります。)

■船舶廃油処理事業

いわゆる船舶洗浄水の処理事業です。四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。

許可・資格等

- ・産業廃棄物処分業許可（三重県知事）
- ・特別管理産業廃棄物処分業許可（三重県知事）
- ・産業廃棄物収集運搬業許可（三重県知事）
- ・特別管理産業廃棄物収集運搬業許可（三重県知事）
- ・危険物製造所設置許可（桑名市長）
- ・一般貨物自動車運送事業・第一種利用運送事業許可（中部運輸局長）
- ・船舶廃油処理事業許可（中部運輸局長）
- ・三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」（北勢工場）
- ・毒物劇物一般販売業登録業者
- ・ISO14001 認証取得



取締役
営業・運輸部長 伊藤 祐介

最新のニュース&お知らせ

- ★ いなべ市に悪臭防止法による規制地域が制定されました。 参照 P 14
- ★ 北勢工場の臭気対策を一層充実強化しました。 参照 P 14
- ★ J I C A 事業に協力し、ブラジル研修生が北勢工場を見学しました。 参照 P 22

- ★ 三重県産業廃棄物協会排出事業者部会（視察研修会）が北勢工場を見学しました。 参照 P 23
- ★ 「低炭素社会シンポジウム」に生川社長がパネリストとして参加しました。 参照 P 24
- ★ 生川社長が三重県環境審議会やその部会に委員として出席しました。 参照 P 22

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です

安定・継続的な資源化の経営理念で取組めます。



産業廃棄物の排出企業、廃棄物処理業者、資源化製品利用企業の三者間の営業取引において、三者のいずれかが一時の利害や自己の利益のみ追求する一人勝ちの経営では、安定・継続的な資源化への取組は確立されません。資源の循環は、経営の循環なくして成立しないと考えます。連携企業が協働して、安定・継続できる経営を理念として取組んでいます。創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、こうした理念のもと協働・連携させていただき、平成 21 年度においてもお取引先 680 社の北勢工場への搬入廃棄物について再資源化し有益な取組ができましたことに感謝します。今後とも安定・継続的な連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)
代表取締役社長 生 川 好 彦

循環型社会構築へ



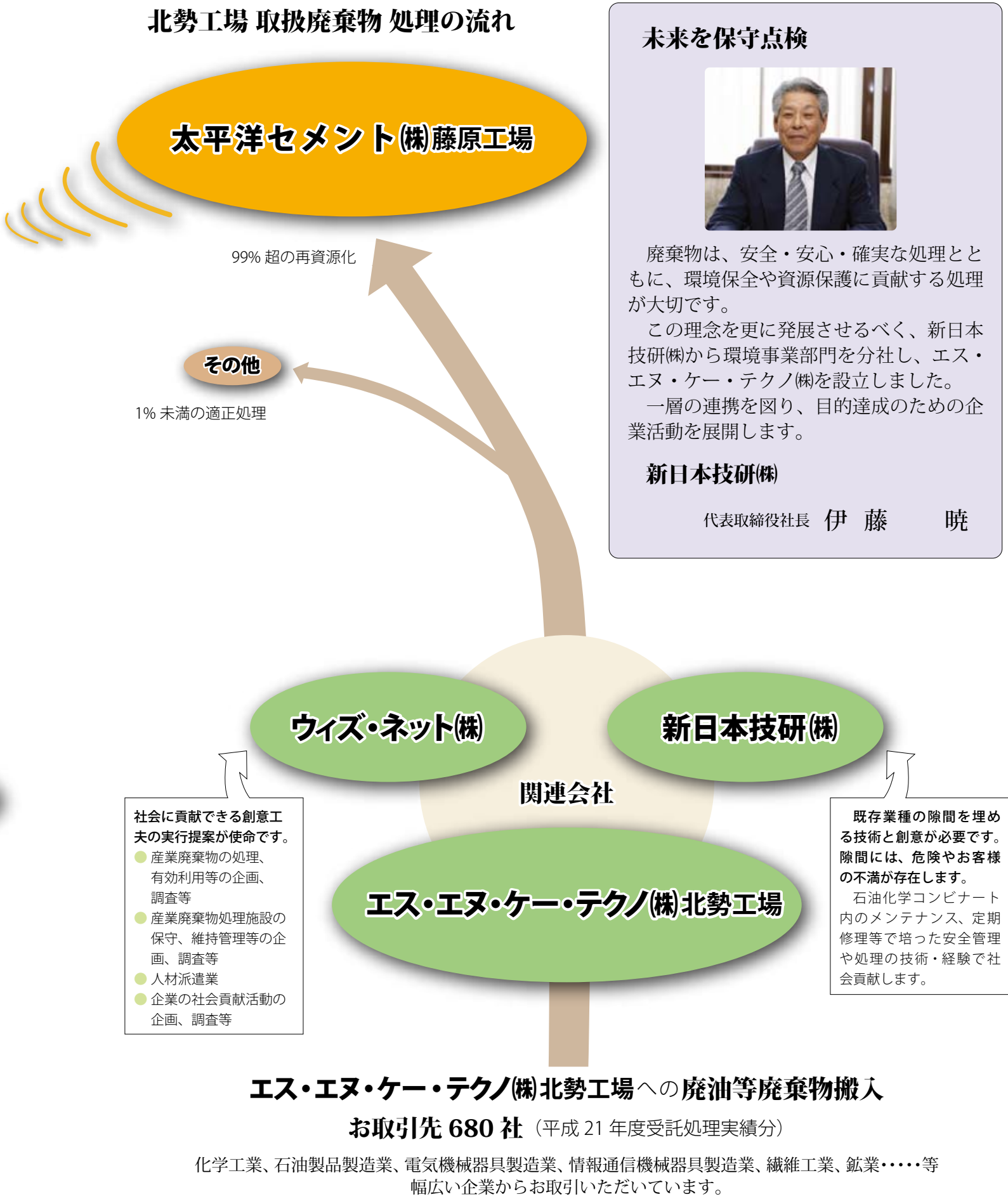
持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

太平洋セメント(株)藤原工場
工場長 玉 重 宇 幹

船舶廃油処理事業



三社が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得、体制が整いました。これまで、わざわざ関東や関西地区に運搬し処理せざるを得ませんでした。入港船舶の利便と海洋の環境保全に取り組めます。



3 廃油等の再資源化処理プラント・北勢工場です



取締役
工場長 藤村 等

■ 北勢工場は

廃油等の再資源化処理施設です

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する環境負荷のほとんど無い再資源化施設です。

- ・産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可処理能力
混練施設 252 t / 日（8h）第一工場及び第二工場に各 1 施設
中和施設 48.0 t / 日（8h）
- ・危険物製造所としての許可施設（消防法）

自社開発の廃棄物処理プラントです

創業以来培った廃棄物の再資源化技術や経験を生かした、自社開発の廃油等再資源化処理プラントを、平成 7 年 12 月に建設（当時は新日本技研株式会社）。

社会経済状況の変化に伴う顧客ニーズに対応できる施設設備の改善・工夫を重ね、現在の経営視点のみでなく、再資源化処理困難物の再資源化の範囲の拡充に取り組んでいる。

- ・平成 15 年 5 月 第二工場新設
- ・平成 19 年 4 月 処理困難物前処理棟設置
- ・平成 21 年 3 月 引火性廃油の再資源化処理の拡充（第二工場に危険物製造所設置）

ISO14001 認証取得工場です

三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

三重県では、産業廃棄物の中間処理施設への搬入に対し、排出事業者には産業廃棄物税が課されますが、この再生施設へ搬入する場合は課税されません。

船舶廃油処理事業許可施設です

四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。

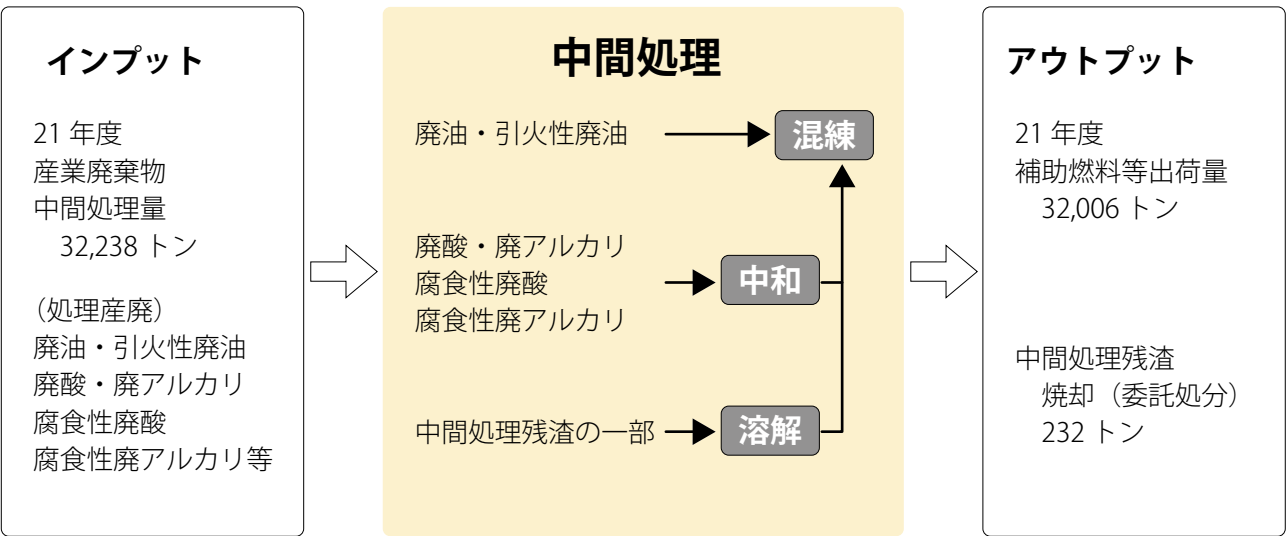
北勢工場全景



◎ 北勢工場取扱廃棄物の 99% 超を再資源化

平成 21 年度にお取引先 680 社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃油、廃酸、廃アルカリ等 32,238 トンにつきましては、北勢工場ではセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、32,006 トン（99.3%）を再資源化し供給しました。

再資源化に伴う環境負荷状況（平成 21 年度）



中間処理エネルギー消費量		中間処理 CO2 排出量	
電気	187,172 kwh	エネルギー消費量分	165.4 トン
輸送燃料	31.2 kℓ	残渣焼却分	677.0 トン
合計熱量	1853.7 GJ	合計排出量	842.4 トン

※その他 中間処理システムの環境保全特色

- ◆ 工場からの排水のない処理システム
- ◆ 熱処理工程のない無煙の処理システム
- ◆ 搬入廃棄物以外の再資源化原料は、搬入廃棄物の0.25%程度の中和剤のみ

再資源化に伴う環境評価（平成21年度）

■資源保護効果 石炭（一般炭）約19,830トン相当の資源保護

- ◆ 再資源化で新たにつくられるエネルギー量 527,487GJ

■CO2視点からの環境評価

- ◆ 搬入廃棄物が資源化されずに全量単純焼却処理された場合のCO2排出量 36,550トン
(無用なCO2の排出抑制効果)

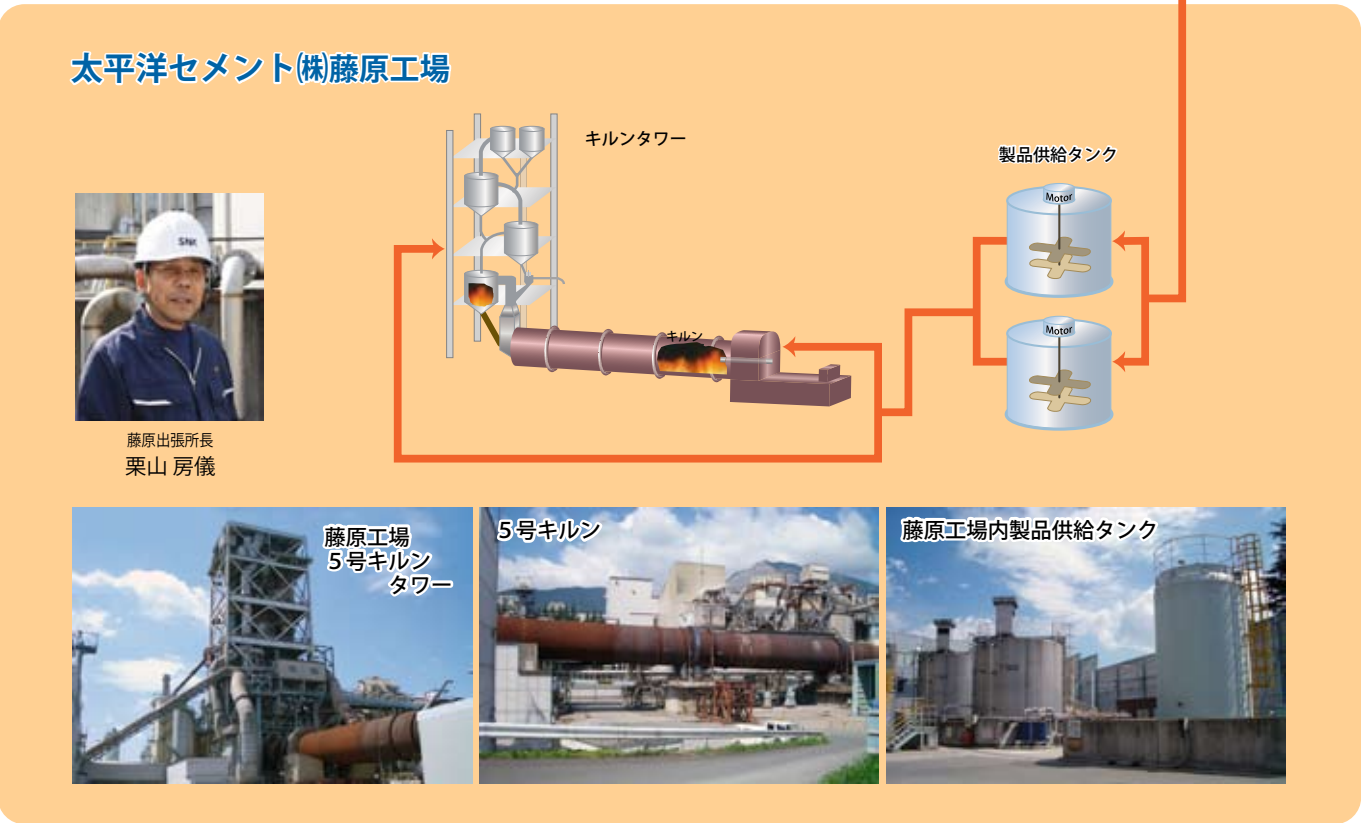
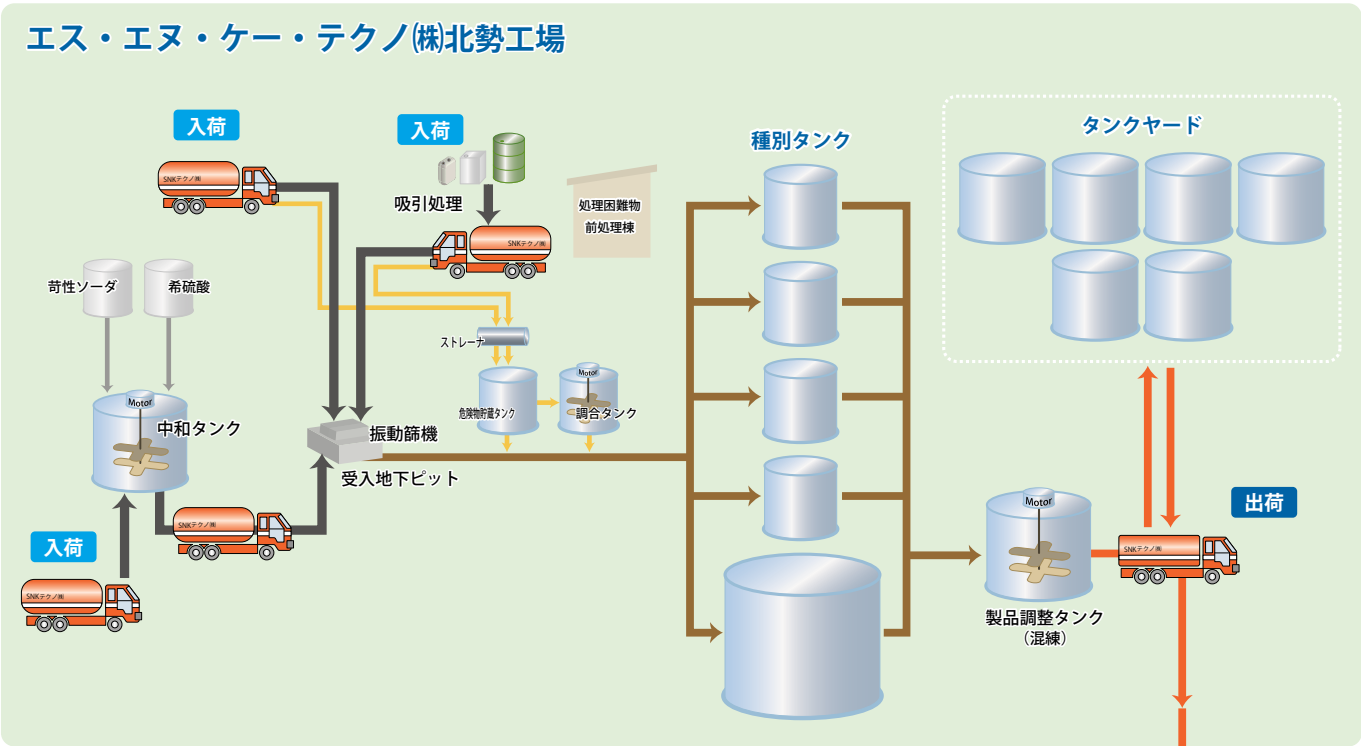
※排出量は、仮定のA重油と廃水のエマルジョン燃料として換算

- ◆ 現状のエマルジョン燃料は、石炭（一般炭）のCO2排出量よりも少なく、石炭代替燃料としては排出抑制効果がある。概ね20%程度の排出量の減量が期待できる。

◎ 廃油等の補助燃料への再生処理（中間処理）工程

■北勢工場と太平洋セメント(株)藤原工場の連携システム

- 1 お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
 - 2 製品企画に適合する調合割合で混合・攪拌するなどして製品化
 - 3 セメント焼成工程のロータリーキルンの補助燃料として燃焼処理
- 高温燃焼（1,450℃超）により、ダイオキシン等の有害物質の生成は完全抑制

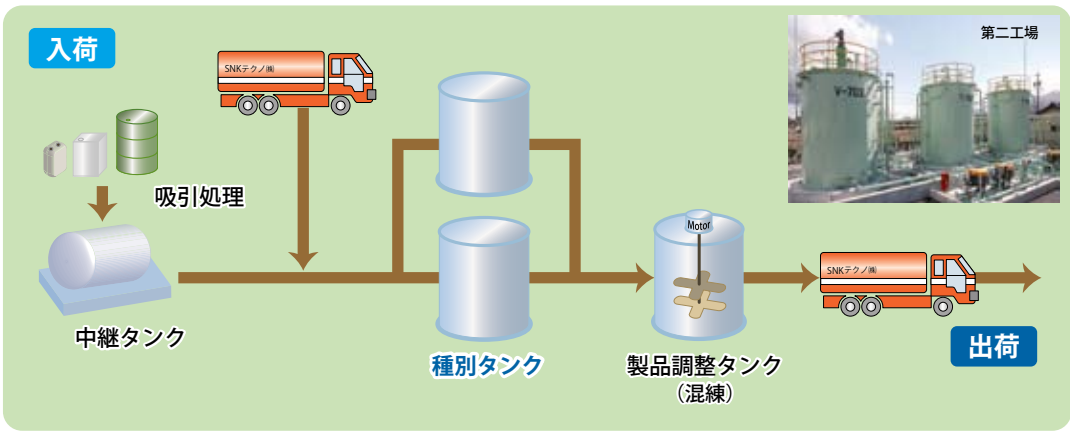


■お客様のニーズに応える再資源化処理の拡充

（第二工場に危険物製造所設置）

引火性廃油の安全・安定した再資源化処理を行うため、平成 20 年 11 月 26 日桑名市長の許可を得て、第 2 工場内に危険物製造所を設置しました。

危険物第 4 類第 1・2 石油類及びアルコール類の取扱に対応できる設備として、受入、保管及び中間処理（混練）工程により、危険物第 4 類第 1 石油類となるエマルジョン燃料の製造施設が平成 21 年 4 月から稼動しました。



廃油等の年度別再資源化実績

年度(平成)	補助燃料等搬入量(利用実績)(トン)
21 年度	32,006
20 年度	37,780
19 年度	48,641
18 年度	46,494
17 年度	45,874
16 年度	49,677
15 年度	42,346
14 年度	33,973

平成 21 年度廃油等の再生処理による再資源化量は、32,006 トンで、搬入廃棄物の性状等からセメント焼成用補助燃料等としての利用実績は 27,976 トン、残る中和処理水 4,030 トンは、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水を用いて温度調整する必要があるので、この場合の工業用水の一部代替水として利用

- ◆平成 22 年度 環境活動計画（ISO14001）において、北勢工場への搬入廃棄物量を増加し、再資源化量を増大する環境目標を設定しました。
- 環 境 目 的： 北勢工場搬入廃棄物量を平成 24 年度に年間 50,000 トンとする。
- 平成 22 年度目標： // 年間 38,000 トンとする。

4 社会ニーズに応える廃棄物再資源化の取組体制です

産業廃棄物の排出事業者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、委託した産業廃棄物の最終処分が終了するまで、廃棄物の処理が適正に行なわれるために必要な措置を講じるよう努めなければならないとする「排出事業者責任」が規定されています。

わたしたちは、廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、この排出事業者責任はもとより、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組めます。

◎ 安心・安全・確実な再資源化への取組

適正処理方法の選択

当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を必要に応じて行うほか、お客様には「廃棄物データシート（WDS）」の提出をお願いしています。

双方の協力が廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。

廃油等のセメント焼成用補助燃料等への利用促進

セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物は出ません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行い再資源化を促進しています。

従前、活用できなかった性状の廃油等についても、研究・工夫しながら利用範囲の拡大を進めています。

◎ 北勢工場試験分析室の取組

企業の生産活動の変化に伴い、廃棄物の性状や排出量も変化することから、地域社会やお客様のニーズに対応できるように努めています。また、測定時の環境配慮方針を定め環境負荷の低減に取り組んでいます。

環境計量士
(濃度関係)
国家資格取得
(H20 年 5 月)

環境計量士
柴原 明



◎ 再資源化に向けての研究

環境理論や技術で裏打ちされる再資源化処理を研究・工夫し、再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充します。これまでの経験を活かし、既存の理論・技術を新しい観点から応用・工夫する等の柔軟な発想を持ち、営業担当の提案に耳を傾け北勢工場試験分析室を活用し、関連会社ウィズ・ネット(株)顧問と協働して、チームで着実に推進します。



技術部長 山路進一



顧問 平中 怜



顧問 今市 脩

最近の技術的検討項目（主たるもの）

- ◆ 北勢工場（第一工場）臭気対策の充実・強化を図る脱臭装置の設計及び運転条件等に関する技術的検討（H22 年 5 月末に整備済）
- ◆ 廃棄物の効果的・効率的処理による新規燃料の開発
 - 液分離を起こし難いエマルジョン燃料の製造方法
 - ドラム、ペール缶等の容器から取出し困難廃棄物の取出し及び処理方法
 - トナー等粉体廃棄物処理による新規燃料の開発
- ◆ 硫化物含有海水の酸化処理に関する技術的検討

測定実施項目と内容		測定実施時の環境配慮事項等
全塩素量測定	塩素含有量を燃焼分解後の電量滴定法で測定	排気ガスは独自の脱臭スクラバーで脱臭
発熱量測定	発熱量を燃焼による水温上昇によって測定	有害燃焼ガスはスクラバーで吸着処理
蛍光X線測定	蛍光 X 線を用いて元素含有量測定 (定量分析で塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素測定) (FP 法分析(半定量分析) ナトリウム〜ウラン測定)	廃液の大まかな構成物質の把握が可能となり一層の適正 処理に貢献。リサイクル可能な金属の検出も可能
pH 測定	試験紙の色の変化により測定または pH メーターでの水素イオン濃度測定	環境負荷の小さい試験紙を優先使用
中和量測定	中和剤使用量を中和滴定によって測定	市販の中和剤を極力使用せず廃液(廃酸・廃アルカリ)同士での中和を積極的に導入
引火点測定	タグ密閉式またはセタ密閉式測定方法で測定	省エネタイプの冷却水循環装置を使用 セタ密閉式の導入により、様々な条件の引火点も測定可能
フッ素イオン測定	フッ素イオンメーターでフッ素イオン濃度を測定	有機フッ素も発熱量測定器を使用し、燃焼分解処理を行うことにより測定可能
クロム(VI) 測定	六価クロムを指示薬着色による吸光度分析により測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
過酸化物質測定	ヨウ素でん粉反応を利用した滴定で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
水分量測定	カールフィッシャー水分測定法で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
混触試験	廃棄物の混合によって起こる反応性の有無についての測定	反応を抑えて処理する廃液混合を模索し処理可能になるよう研究
溶解試験	固形廃棄物の溶解処理の可否試験	固形廃棄物の処理拡大のための研究開発実施
汚泥の試験	水分量測定、熱灼減量測定、必要に応じ灰分の蛍光 X 線分析	有害燃焼ガスはスクラバー吸着処理

※その他の環境配慮

- ・測定後のサンプル・試薬の約 90%はセメント原燃料に再利用
- ・分析室発生廃液は分析器具の洗浄水のみ

5 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です

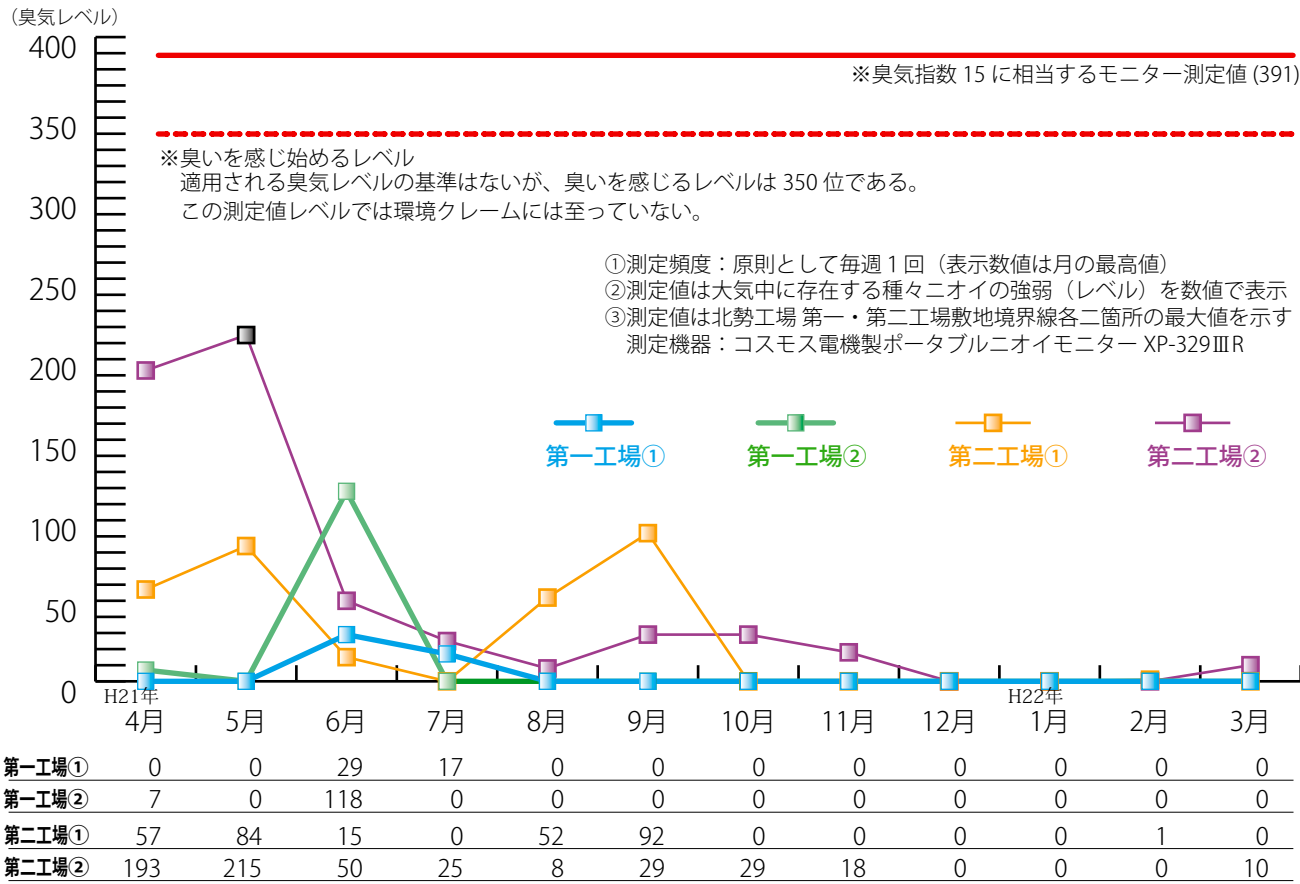
◎ 北勢工場の環境保全の状況

臭 気

臭気対策は、ISO14001 の環境目標に悪臭対策を定め取組んだほか、北勢工場試験分析室を中心として、継続しての改善に取り組んでいます。

臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）6 連及び消臭剤散布設備の二重対策や排出ガス脱臭装置を設置しています。

■北勢工場臭気測定値（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）



- ◆ いなべ市に、悪臭防止法による規制地域が制定され、平成 22 年 4 月 1 日から施行されました。人の嗅覚による感度を反映した臭気指数規制による規制地域で、**北勢工場の規制基準は臭気指数 15** です。（1 種区域に該当：都市計画法の規定に基づく工業地域等の 2 種区域は臭気指数 18 が適用されます。事業場の敷地境界線の地表における規制基準です。）

北勢工場の臭気測定値は、現状において、規制基準を十分クリアーしていますが、更なる万全を期するため、また、お客様のニーズに応える再資源化処理の拡充をめざして、第一工場の脱臭設備（吸収塔）を整備（H22 年 5 月末）しました。



飛散・流出・浸透防止

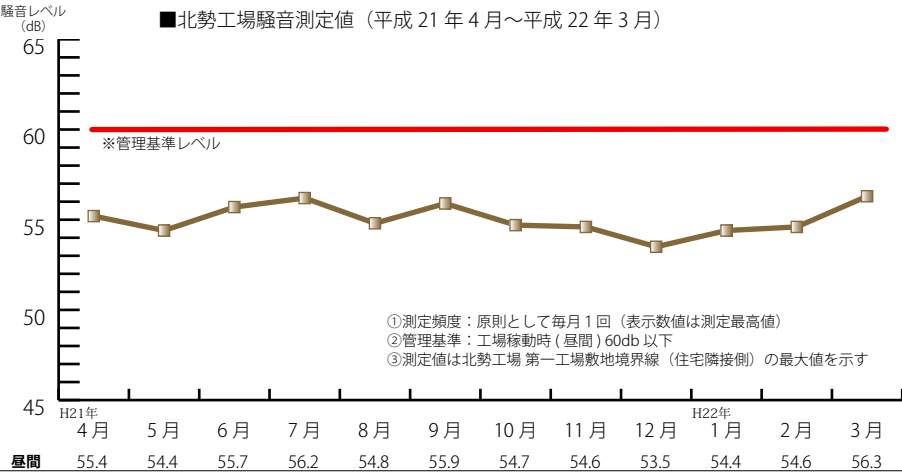
防油堤、油水分離槽の設置、コンクリート又はアスファルト舗装による浸透防止対策等を行っています。また、最終の油水分離層には油膜検知器を設置し、昼夜を問わず廃油の流出が発生すれば警報を発砲するとともに警備会社へ自動的に通報するシステムを整備しています。

■工場排水口における水質管理基準（いなべ市環境保全協定）と測定値

測定項目	管理基準	21 年度測定値 (毎月 1 回)
水素イオン濃度 (PH)	5.8 以上 8.6 以下	6.6 ～ 7.3
生物化学的酸素要求量 (BOD)	25mg/ℓ (日間平均 20mg/ℓ) 以下	1.0 ～ 16.0 mg/ℓ
浮遊物質 量 (SS)	90mg/ℓ (日間平均 70mg/ℓ) 以下	1 未満 ～ 7.0 mg/ℓ
大腸菌群数	3,000 個/㎤ 以下	1 未満 ～ 1,400 個/㎤
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	5mg/ℓ 以下	1mg/ℓ 未満

騒 音

構造物での遮蔽壁（吸音板）の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



防 火

工場には火を使う処理工程はありません。危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。

そ の 他

工場周辺の緑化

小さいスペースにゆとりある廃棄物保管

「滞留させずにその日に処理」を原則に運営することが、不測の事態にも備えられ、安全・環境保全に第一との創業時の決意と伝統です。



北勢工場 課長 汲田亘俊

◎ 北勢工場への環境クレーム

環境クレームに対しては、様々な事例を想定して、発生させない事前の取組を基本としていますが、平成 17 年度には、悪臭に対する環境クレームが 2 件発生しました。情報を開示し、ISO14001 のツールを活用して問題解決に向け全社的に取組んだ結果、平成 18 年度以降、環境クレームに至るまでの事案は発生していません。

6 廃棄物の再資源化を進める廃棄物収集運搬事業です

わたしたちの廃棄物収集運搬理念

わたし達が収集運搬する廃棄物はほとんど再資源化されます。従って、私たちは、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。

赤い車輛は、創業者の安全・適正な収集運搬の決意です。創業時の決意と伝統を引き継ぎ、収集運搬する廃棄物を一人一人が大切な資源として取扱っていきます。



◎ 再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績

汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。

こうした汚泥等の再資源化に向けて太平洋セメント(株)藤原工場様や関連会社のウィズ・ネット(株)と連携・協働して平成 18 年度実績を基点とする

①再資源化廃棄物の収集運搬量の増量

②再資源化廃棄物の収集運搬率の向上

を目標とする 5 カ年計画（平成 19 年度～ 23 年度）に取り組んでいます。



営業・運輸部次長
岩田 恭典

◎ 安全・環境に優しい収集運搬を行うため 6 種類・32 台の車輛を保有

車の種別	主たる利用区分(当社)	安全・環境対応等(特徴)	最近の環境対応車導入の状況	車両写真
粉粒体運搬車	粒子の小さい飛散性のある固形物の運搬	長距離・高所に粉粒体を排出可能	平成 22 年 4 月導入 (NOx・PM適合、速度抑制装置付車)	
フックロール車	汚泥等バラものの運搬	キャリアと荷台が分離できるアーム式脱着装置付コンテナシステム車	平成 20 年 2 月、平成 2 年登録車を更新 (NOx・PM適合、速度抑制装置付車)	
バキューム車	液体物の運搬	真空ポンプでタンク内を減圧して吸引、加圧して排出	平成 18 年度更新時にハイブリッド車導入	
タンクローリー車	液体物の運搬	3 室に区画され、吸入・排出時は動力使用	平成 21 年度導入 (H 27 年度燃費基準達成、NOx・PM適合、速度抑制装置付車)	
平ボディー車	容器類の運搬 (ドラム・コンテナ・フレコンバック等)	8t パワーゲート車輛装備	平成 6 年登録車廃車	
ダンプ車	汚泥等バラものの運搬	下水道汚泥専用車装備	平成 18, 19 年度下水道汚泥の運搬専用車輛導入 (完全密閉式自動シート等装備)	



営業・運輸部 課長 渡辺彰久

再資源化利用廃棄物の収集運搬目標（18 年度実績基点）

平成 19 年度から 23 年度の 5 カ年において、年平均で

①再資源化廃棄物の収集運搬量を 6 万トン以上に増量

(21 年度実績 68,736 トン)

※19～21 年度の 3 カ年平均 63,977 トン

②再資源化廃棄物の収集運搬率を 90 %以上に向上

(21 年度実績 92.7%)

※19～21 年度の 3 カ年平均 92.0%

平成 21 年度廃棄物収集運搬実績

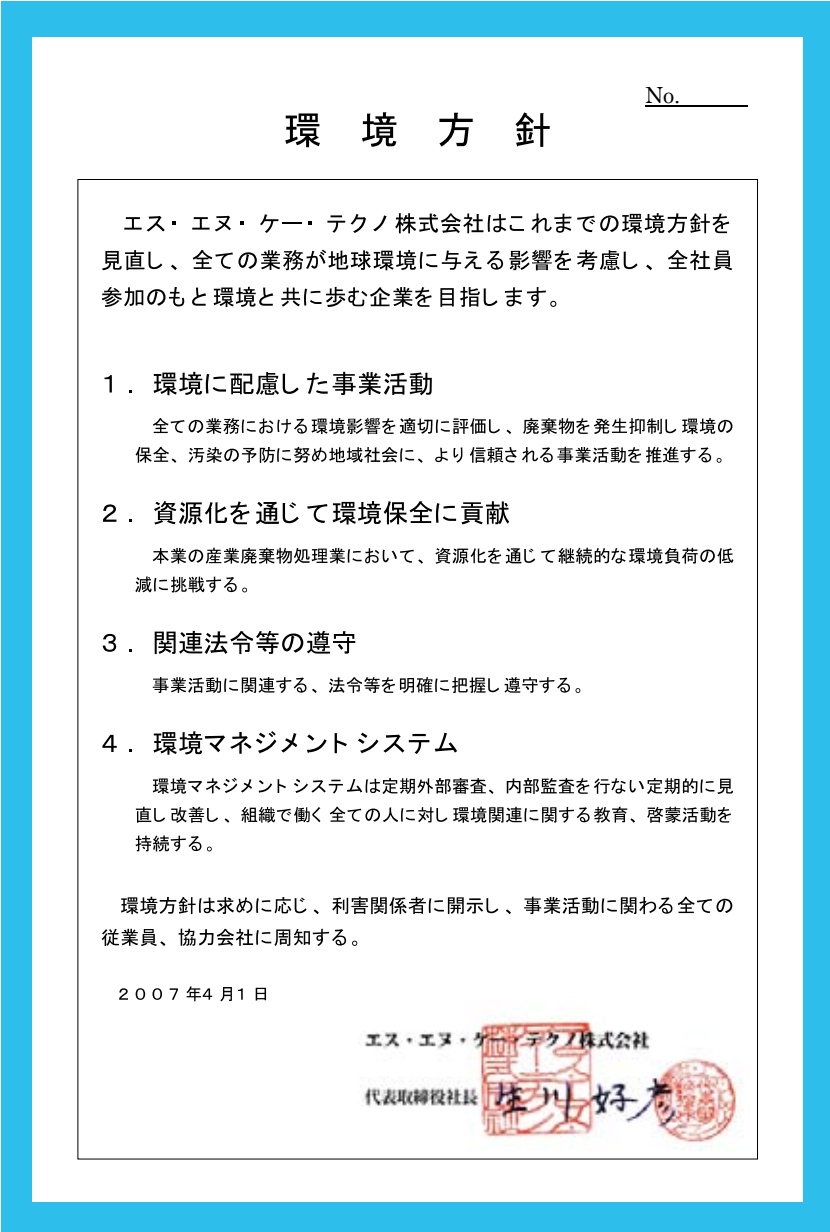
() 内は平成 18 年度実績 単位：t

廃棄物区分 処分内容	北勢工場への搬入産廃 (廃油等)	他社中間処理施設への収集運搬		計
		産廃 (汚泥等)	一般廃棄物	
セメント原燃料利用 (A)	(27,549) 19,205	(12,908) 38,712	(5,891) 5,817	(46,348) 63,734
焼却処分等	(852) 232	(5,549) 4,770	(—) —	(6,401) 5,002
計 (B)	(28,401) 19,437	(18,457) 43,482	(5,891) 5,817	(52,749) 68,736
直接の再資源化収集運搬率 (A÷B)	(97.0%) 98.8%	(69.9%) 89.0%	(100.0%) 100.0%	(87.9%) 92.7%

※ 平成 19 年度から平成 23 年度の 5 カ年間、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を、全量セメント原料として再資源化処理する入札に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者 2 社の 3 社が共同参加して落札、現在、契約に基づいて事業実施、当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備）を導入して収集運搬しています。

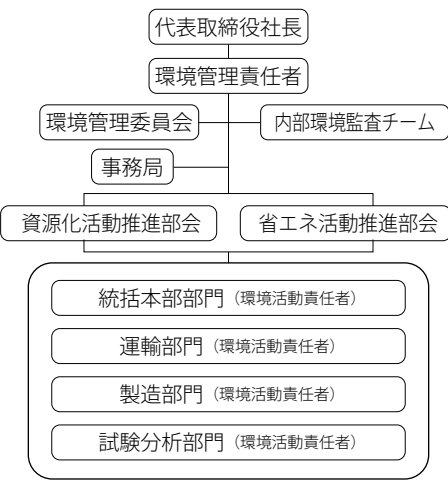
7 ISO14001 認証取得・環境活動の状況です

◎ ISO14001 認証取得経過・環境方針・推進体制



環境保全推進体制（平成 21 年度）

ISO14001 に基づいて、環境マニュアルや手順書を作成し、継続的な改善に取り組んでいます。組織としては経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする次の体制で取り組んでいます。



◎ 環境活動報告（平成 21 年度）

目標項目	環境目標	実 績	取 組 内 容	評価
工場・エネルギー消費によるCO2発生量の削減	出荷1t当りCO2排出量 10%増以下	4.4% 増	ポンプ類稼働時間短縮、休憩時節電、冷暖房温度の設定（冷 28・暖 20）（増加要因は、第二工場危険物製造所稼働開始に伴う電力使用量の増）	○
タンク等清掃に伴うスラッジ発生量の削減	清掃時発生量に対しその 50%を削減（再資源化）	52%削減（96.8tの汚泥発生・50.3tを再資源化）	清掃時に発生したスラッジから液分を吸引し、補助燃料として再利用	○
産業廃棄物回収容器のリサイクル	ポリドラムのリサイクル先調査とリサイクル化	H21 年 12 月からリサイクル化開始	従来の引取先倒産のため新リサイクル先の調査（全廃棄物容器のリサイクル率 87.8%）	○
中和剤の削減	平成 19 年度中和剤 使用 実 績 の 10%を使用削減	77.6%使用削減	中和剤（苛性ソーダ）の使用を削減し、高濃度のアルカリ濃縮液や高濃度の廃酸、廃アルカリを使用	○
フッ素含有廃液の処理範囲拡大	フッ素含有物質フッ素含有量の分析方法の確立	一定の測定可能範囲で目標達成測定手順書作成	従来、有機フッ素が含まれる可能性があるものについては、全て処理不可。今後、測定精度を向上させる。	○
トラックの運行による環境負荷の低減	H18 年度削減実績の 45%削減（燃料・Nox・Co2）	燃料 47.2% 削減 Nox 50.0%削減 CO2 47.5% 削減	省エネ運転講習会への参加と実行、毎月の担当者制による意識向上運動、朝の暖気時間短縮など	○
環境情報の開示	環境報告書作成、リーディング産業展みえ出展	H21 年 7 月作成・公表、 H21 年 11 月出展	平成 20 年度の活動を「安全・環境経営レポート」として第 5 版を作成、平成 18 年以来毎年出展（4 回目）	○
美化活動	周辺環境の整備・4 回の清掃活動	計画通り実施	各事業所、詰所、駐車場周辺の状況により適時実施	○

ISO14001 環境目標と活動経過

- ◆ 認証取得時目標と実績（平成 16 年～ 18 年度）
電気、用紙、燃料、中和剤等の使用量の削減と悪臭対策としての設備整備等 15 項目を環境目標に設定し、継続的な改善に取り組んだ結果、14 項目で計画達成、1 項目（工場事務部門省エネ）未達成
- ◆ 認証更新時目標（平成 19 ～ 21 年度）
使用量の削減等については、社員の意識や行動が定着してきたことから、環境目標とせず、管理的な項目として継続的に取り組むこととし、本来の業務の中での環境負荷低減の視点を重視し、また、環境方針及び環境保全組織も変更



クールビズでの営業活動

■グリーン購入への取り組み

- ◆ 平成 18 年 5 月 1 日から①OA用紙・印刷用紙 ②文具・事務用品 ③照明ランプ ④車輛を対象に取組開始
- ◆ 平成 18 年 7 月 28 日 みえグリーン購入倶楽部・グリーン購入ネットワークに入会し、会が主催する活動に参加
- ◆ 平成 22 年 4 月 1 日付で「エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社グリーン購入指針」策定
実態としてのグリーン購入の取り組みは積極的に行われてきたが、明確な内容の購入指針がないため、取り組みの成果が明らかでなかった。今般、「購入指針」を策定し、基本方針、適用範囲、物品等選定時の配慮事項等を定め、更に、使用抑制する有害化学物質等を明示、「グリーン購入ガイドライン」を定めて、グリーン購入の基本的判断基準、品目別判断基準、目標設定等を明確にして推進することとしました。

8 組織・全社員の「安全・環境」意識や技術を高める取組です

◎「安全・環境」教育・訓練等の実施（平成 21 年度）

■事故や緊急事態の対処・環境保全訓練

- 5 月 28 日 試験分析部門で想定される事故及び緊急事態の対処訓練
- 9 月 1 日 タンクローリー車教育（構造、取扱、事故処理等）
- 9 月 5 日間 工場廃液引取実地訓練
- 9 月 14 日 試験分析部門で想定される事故及び緊急事態の対処再訓練
- 9 月 27 日 緊急通報訓練（地震による廃油流出事故想定）
- 10 月 16 日 地震防災訓練（泡消火栓を使用した放水訓練・怪我人搬出訓練）
- 10 月 23 日 消火設備操作教育
- 11 月 10 日 タンクローリー車教育（構造、取扱、事故処理等）
- 3 月 5 日 防火訓練（T606 タンク出火想定）



■専門分野教育・訓練

- 5 月 18 日 タンクレベル計保守教育
- 5 月 28 日 試験分析作業と環境配慮事項等
- 6 月 23 日 各種作業時の留意点説明（作業手順書の確認）
- 7 月 28 日 内部環境監査員（候補者含む）教育
- 9 月 1 日 引火点測定試験、方法
- 10 月 21 日 安全衛生管理責任者・安全衛生委員研修（リスクアセスメント）

■収集運搬教育・訓練

- ◆安全衛生会議の開催（毎月）
運輸部門関係者全員で、安全・安心・適正な収集運搬のための定例会議を開催（以下、議題例）
 - 平成 21 年度安全衛生管理方針と運輸部内取組
 - ISO14001 関連の連絡事項と環境美化活動
 - ヒヤリハット事例の全員共有、原因検証と対策実行
 - 新型インフルエンザ対策
（社内取組、緊急事態発生時の連絡体制、排出社毎の作業教育等）
- ◆収集運搬教育・訓練（事例）
 - 各種ヒヤリハット事例検討（最重点の教育訓練として通年実施）
 - 産業廃棄物の安全・適正処理
（荷姿、マニフェスト記載、過積載防止）
 - 道路交通法令の改正教育
 - 危険物タンクローリー車の取扱及び廃液引取実施訓練
 - 運行前点検の実施
- ◆資格取得・講習受講
 - 独立行政法人 自動車事故対策機構「適正診断」受講 3 名（乗務員対象：全員受講済）
 - 危険物取扱者乙 4 類資格取得 3 名（計画取得対象者 18 名中 16 名取得済み）
 - 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習 4 名（自主的取組支援：10 名修了）
 - 有機溶剤作業主任者技能講習（自主的取組：6 名修了）



■新入社員（初任者）研修

- 環境マネジメントシステム、営業業務の概要、産業廃棄物に関する法令等
- 現地実施研修（工場業務、運輸業務、営業業務等）、その他一般的事項

■営業担当研修

- （研修課題例）○産業廃棄物に関わる法令等について
- ビジネスマナーについて
- 営業活動に当たっての安全知識について

■全社員参加の安全・環境に関する研修会（毎年実施）

日時等 平成 21 年 7 月 11 日 76 名参加（関連会社含む）

内 容 表 彰 安全衛生功労 3 名
資格取得者 6 名
優秀標語 10 名

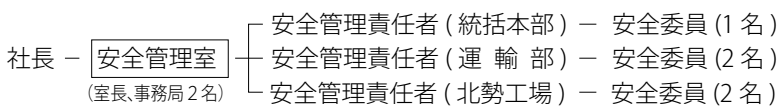
研修等 ①安全講演 演題「みる」
②ビデオ上映
「安全衛生を先取りするリスクアセスメント」
③リスクアセスメント解説（山路技術部長）



鈴鹿サーキット交通教育センター
交通教育課長 平井 真 氏

◎ 安全・環境取組の組織体制等

■安全管理体制



安全管理室長 森 政一

■経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロール



パトロールは、安全衛生及び環境視点にたって、保護具の着用状況、不安全箇所・不安全行動の有無、整理整頓状況等きめ細やかな点検及び前回の指摘事項に対する是正状況を確認し、確実に改善します。

（平成 21 年度の状況）

実 施	経営トップパトロール	2 回
	安全管理室定期パトロール	9 回
指摘事項	改善指摘事項	66 項目
	うち 是正済み	60 項目
	未是正	4 項目（計画的に実施中）

■社員からの安全改善提案・標語募集

安全改善提案 24 件（20 年度 68 件、19 年度 102 件、18 年度 27 件）
安全・環境意識の高まりが積極的なグループ提案に繋がっています。

安 全 標 語 53 件（20 年度 74 件、19 年度 90 件、18 年度 67 件）
最優秀標語「みんなに告げようヒヤリハット みんなで守る 職場の安全」
（平成 21 年 7 月 11 日社長表彰 統括本部 興梠恵理）

9 社会貢献活動の取組状況です

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。
当社の人材や技術等を地域社会で活用することを中心に取組んでいます。

■JICA（独立行政法人 国際協力機構）への事業協力



平成 22 年 2 月 2 日、J I C A が実施した「ブラジル国マナウス工業団地産業廃棄物管理改善計画調査」（ブラジル研修生 5 名、同行者 2 名）に協力して、北勢工場において、エマルジョン燃料の製造等の説明や工場見学を行いました。



平成 20 年 10 月 24 日の（財）国際環境技術移転研究センター（I C E T T）が実施した中華人民共和国河南省環境保護局研修員の公害防止技術研修協力時と同様大変感謝され、当社にとっても有意義でした。

■社長の三重県環境審議会委員への就任と活動

環境審議会は、知事の諮問に応じ、三重県の環境の保全等に関する基本的事項を調査審議する機関ですが、広く県民の参加を得て、より開かれた県政の推進を図るため、委員の一部が公募されました。環境経営理念のもと企業活動を展開する者として、環境問題の解決に少しでもお役に立ちたいと応募し、選考の結果、平成 20 年 12 月 1 日に就任しました。

「環境基本計画部会」、「地球温暖化対策実行計画部会」に属して審議に参加しています。

■他企業、団体等の環境取組等への協力

多様な企業等とのお取引が多いことから、廃棄物やその周辺の事柄、環境取組み等での困りごとについて、関連会社のウィズ・ネット㈱が有する経験豊かな人材に着目して、協力依頼が寄せられます。

他企業等への協力が社会貢献活動に繋がると考えられる場合は、ウィズ・ネット㈱と連携して、積極的に参加・協力しています。

- 汚泥等の臭気対策について、知識・経験豊かな人材を派遣するなどして調査や対策に協力
- お取引先企業の環境に関する社会貢献活動企画等を支援
- その他、できるだけ間口を広げての対応を信条としています。

■地域貢献活動

◆ 周辺地域美化活動（平成 21 年度）

- ISO14001 の環境目標として実施
- 統括本部、小杉詰所、北勢工場周辺でゴミ収集・除草実施
- 毎月、周辺の状況を確認し、状況に応じて実施
統括本部（4 回）小杉詰所（6 回）北勢工場（3 回）

◆ 安全・環境経営レポート裏面に「いなべ市の案内」掲載

様々な地域から工場見学に来ていただく皆様などにご紹介することで、少しでも地域に貢献



10 環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

ISO14001 認証取得

2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得

2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得（2007 年 10 月 12 日更新審査・確認）

ホームページ開設

事業活動のほか、環境への取組について幅広く公表

U R L : <http://www.snk-techno.co.jp/>

環境報告書（安全・環境経営レポート）第六版の作成、公表

当社事業の性格上「安全」と「環境経営」の理念を一体として捉える必要から「安全・環境経営レポート」として作成

（作成経過）	第一版	平成 17 年 9 月発行（平成 16 年度活動報告）
	第二版	平成 18 年 9 月発行（平成 17 年度 " ）
	第三版	平成 19 年 8 月発行（平成 18 年度 " ）
	第四版	平成 20 年 7 月発行（平成 19 年度 " ）
	第五版	平成 21 年 7 月発行（平成 20 年度 " ）第三者コメント掲載
今回	第六版	平成 22 年 7 月発行（平成 21 年度 " ）第三者コメント掲載

なお、この報告書は、今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行することとしています。

工場見学（視察）の積極的受入

平成 21 年度は、165 企業等から 290 名の皆様にご視察いただきました。

最近 5 カ年間では、660 企業等から 1,161 名となりました。



- ◆ 平成 21 年 4 月 9 日 三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻 佐藤邦夫教授と二名の同大学生が北勢工場を訪問、工場見学や意見交換を行いました。
また、様々な示唆に富むご指導をいただきました。



- ◆ 平成 21 年 10 月 20 日三重県産業廃棄物協会排出事業者部会（産業廃棄物処理優良企業等への視察研修会）が北勢工場を見学しました。

- ◆ 平成 22 年 2 月 2 日 J I C A が実施した研修事業（ブラジル国研修生 5 名、同行者 2 名）に協力して、北勢工場において、エマルジョン燃料の製造等の説明や工場見学を行いました。

11 第三者コメント



三重大学大学院生物資源学研究科
共生環境学専攻 教授

佐藤 邦夫

このたび、安全・環境経営レポートの最終版を拝見するとともに、担当役員の方と懇談させていただく機会を得ました。一般に ISO14001 の取り組みなどでは往々にしてあることなのですが、このような安全や環境の継続的改善を表明するにあたり、毎年のレポートにどのような新味を盛り込み、あるいは新しい改善の目玉をどのように設定するのかが問題となります。しかしいろいろとお話をうかがって、エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社が取り扱っている素材、すなわち産業廃棄物が、社会・経済の動きを反映して変化してゆくものであること、すなわちその処理にはこれらの変化に対応して新たな工夫が必要となってくるものであることを知ることができました。

このたびの安全・環境経営レポートからは、廃棄物中間処理業にとって「廃棄物は大切な資源である」という理念のもとに、ますます難しく、社会からは今後も排出され続ける廃棄物に対して、積極的に取り組んで行こう、さらにその高い再資源化率を落とさずに処理を継続して行こうという意気込みを感じることができました。担当役員との懇談においても、「何百社の安全管理を引き受けつつこの面で社会貢献を行い、さらに環境改善に貢献する」という姿勢を鮮明に感じ取ることができ、このような状況であれば、安全・環境経営レポートに日々の取り組みを記述さえすれば、新たな目玉をわざわざ探し出す必要もない、まさに理想的な「環境経営」を実践しておられる企業であることを実感いたしました。

また、社名にテクノの文字を冠することもあり、新たな技術開発に余念がないことの確証も得られました。確かに理論的には、いずれも廃棄物である酸とアルカリを適正にブレンドすれば、余分な環境負荷の原因になる中和剤を多量に用いなくても中和することができるわけですが、このような技術を不特定で多様な原料に対して適用していくためには、素材に対する深い知識と長年の経験、それに新しい技術に対する探求心、研究力が必要であることは論を待ちません。しかも、そのような技術を支えている人々が、「全社員参加の安全・環境の取り組み」からも新たに育っていることが、環境の理念と一致して素晴らしいところです。もちろん、企業グループとしての新日本技研(株)やウィズ・ネット(株)との協働、あるいはその他の港湾事業会社との協働も見逃せません。このような協力関係があつてこそ、深い研究力の醸成や幅広い廃棄物取り引き先との協調、さらには新しい事業・販路の拡大が可能となるわけです。

しかし何といたっても、原燃料搬出先であり、近隣に位置する太平洋セメント(株)藤原工場との協調関係は、エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社の排出する環境負荷を大きく押し下げる要因となっていることは、このレポートからも容易に読み取れます。今後とも御社には、このような人の利、地の利を生かし、関連企業と協調することにより、社会に率先して環境経営を推し進めていただきたいと心から願う次第です。

2010 年初夏

リーディング産業展みえ 2009 に出展

平成 21 年 11 月 6 日・7 日に三重県四日市市の四日市ドームで開催されたリーディング産業展みえ 2009（エネルギー・環境ゾーン）に出展しました。



主 催 リーディング産業展みえ実行委員会
開催状況 出展者数 196 来場者数 6,883 人
当社出展 廃油等のエマルジョン燃料への再生処理
フロー図、廃棄物サンプル等

環境大臣表彰を受賞

平成 20 年 10 月 24 日、「平成 20 年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」（3R 活動優良企業）を受賞しました。



「低炭素社会シンポジウム」に生川社長がパネリスト参加



平成 22 年 3 月 5 日、三重県、四日市市、(財)三重県産業支援センターが主催し、四日市市文化会館で開催された「低炭素社会シンポジウム」の分科会「サステナブル経営セミナー～低炭素社会に向けての企業が目指すべき環境経営～」パネリストとして参加しました。



その他

- ◆ 三重県環境森林部「企業環境ネットワーク・みえ」会員
- ◆ みえ・グリーン購入倶楽部会員 グリーン購入ネットワーク会員

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する
最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



統括本部



北勢工場

環境メモ

この報告書をご覧くださいのご意見やご提案などをメモしていただき、お聞かせいただく機会があれば幸いです。

統括本部

☎510-0814 三重県四日市市清水町4番45号
Tel 059-332-3711 Fax 059-332-2132

URL : <http://www.snk-techno.co.jp>

E-mail : eigyoubu@snk-techno.co.jp



東名阪「四日市IC」より 車で約15分 距離8km

北勢工場

☎511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
Tel 0594-72-7850 Fax 0594-72-7851



東名阪「桑名IC」より 車で約30分 距離18km
東名阪「四日市IC」より 車で約35分 距離22km
名神「関ヶ原IC」より 車で約35分 距離28km